

中国貨幣の歴史

10 新・王莽の貨幣改革 —前漢後期～新・王莽時代の貨幣—



小五銖

前漢後期の貨幣

前漢後期には、「五銖」銭の鑄造量減少に対応し、民間での私鑄が盛んに行われ、悪銭化が進行した。「五銖」銭を小型化したような「小五銖」や、周囲を削り辛うじて方孔円銭の形を残した「剪輪銭」が多くみられる。



だいせん ごじゅう
大泉五十

けいとう
鋌刀

しょうせんちよくいち
小泉直一

ふか
布貨

かせん
貨泉

かふ
貨布

新・王莽時代の貨幣

新・王莽時代には、周代を範とした政治が行われ、方孔円銭のほかに、戦国時代の布幣や刀幣などに似せた復古的な貨幣が多数発行された。こうした貨幣の多くは、「五銖」銭に対する強い信認ゆえに社会に受け入れられず、短期間のうちに発行・廃止が行われたため、鑄造・流通量が少なく出土数は他の時代の貨幣に比べ極めて少ない。このなかで、流通期間の長い「大泉五十」、「小泉直一」や、「五銖」銭と同重量の「貨泉」は出土例が比較的多い。

(写真は全て実物×80%)

前漢の最盛期、武帝の時代(紀元前141～87年)に、中央政府による「五銖」銭の独占鑄造体制が確立され安定的流通が確保された。しかし、前漢の後期にかけて、黄河流域を中心とする農業・工業生産の停滞に加え、商業活動も停滞し、富を蓄積した豪族層では荘園の土地経営による自給自足経済が進展するなど経済社会状況が変化していく。貨幣については、原料銅の生産低下により「五銖」銭の鑄造量が減少するとともに、当時貨幣として使用されていた金が東西貿易を通じて国外流出したため、国内の貨幣量が不足し、私鑄による剪輪銭や小五銖が出現して悪銭化が進行した。

中央政府内では、官僚間の権力争いや豪族層の台頭により皇帝の権威が衰えていくなかで、皇帝の外戚関係にある王莽(紀元前45～紀元後23年)が政治の実権を掌握し、のちに帝位を奪い「新」王朝(紀元後8～23年)を樹立する。王莽は、周代の政治を理想とする復古主義的な改革を急速に実施し、そのなかで貨幣の改革も進めた。

王莽は、貨幣量の不足に対し、高額な銅銭の発行と国外流出防止のための金国有化による貨幣価値の安定を考えた。まず紀元後7年、「五銖」銭(重さ五銖)を「一銭」として流通させるとともに、「五十銭」に相当する方孔円銭「大泉五十」(重さ十二銖<7.8g>)と、「五百銭」「五千銭」に当たる「契刀」(約14～18g)、「錯刀」(約30～40g)を発行した。「契刀」「錯刀」は、円銭と刀幣を合わせたような復古的な形状であった。こうした高額な銅銭は、銅銭を重量と切り離し名目貨幣化を狙ったものであったが、引続き「五銖」銭の流通を認めたため社会に受け入れられず、「五銖」銭の私鑄に歯止めをかけられなかった。

次いで、新王朝樹立後の9年、前漢以来の伝統を断ち切り、名目貨幣化の定着を図るべく、「五銖」銭を廃止し、発行後日の浅い「契刀」「錯刀」も廃止した。そして新たに、「一銖」を「一銭」と定めて実質的な平価切上げを行い、重さ一銖で「一銭」の「小泉直一」を発行し、「大泉五十」とともに流通させようとした。王莽は、「五銖」銭を新銭に切り替えるため、民間での銅と炭の所持を禁止し、中央の鑄造機関に加え地方での鑄造も開始したが、「五銖」銭廃止による混乱は著しく、「小泉直一」「大泉五十」の安定流通には至らなかった。そこで王莽は、翌10年、古式に則った亀甲や貝を含む多様な素材、形態の貨幣を新たに定める「宝貨」制を実施した。「宝貨」制は、「一銭」の「小泉直一」を基準とする名目貨幣を拡大するため、5種類の素材(金、銀、銅、亀甲、貝)と、泉貨(銭)、布貨、貝貨、亀甲など6種類の形態からなる28種類の貨幣を定めたが、複雑極まりない制度であったため、貨幣流通の混乱をさらに深める結果となった。

ついに王莽は、貨幣改革の失敗などにより赤眉の乱が勃発していた20年、「一銖一銭」を基本とする名目貨幣化を断念し、「小泉直一」「大泉五十」を廃止した。かわりに、「五銖」銭と同重量(五銖)で「一銭」の価値を持たせた方孔円銭「貨泉」と、「布貨」の形態を継承した名目貨幣「貨布」(重さ二十五銖、価値は二十五銭)を発行したが、ほどなく23年に新王朝は滅んだ。一連の王莽の貨幣改革は、名目貨幣の導入による貨幣量の拡大を試みるという革新的な側面を有しながら、広く受容されていた「五銖」銭の地位を打ち崩すことはできず、貨幣経済をますます混乱、衰退させる結末に終わった。

[山岡直人、日本銀行金融研究所貨幣博物館]

【参考文献】

- 影山 剛、『王莽の賒貨法と六筭制およびその経済史的背景』、1995年
紙屋正和、「前漢後半期以降の貨幣経済について」、『東アジアにおける生産と流通の歴史社会学的研究』、中国書店、1993年
佐原康夫、「漢代貨幣経済論の再検討」、『中国史学』4、1994年
山田勝芳、『貨幣の中国古代史』、朝日新聞社、2000年
山岡直人、「中国貨幣の歴史9漢～隋代の基本貨幣「五銖銭」の誕生—前漢中期以降の貨幣—」、『金融研究』第24巻第1号、2005年